

日本銀行決済機構局長の武田です。「決済の未来フォーラム：クロスボーダー送金分科会」（第8回）にご参加いただき、誠にありがとうございます。

初めに、金融機関の皆さんには、ISO20022への移行に際し多大なご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。この11月に、移行作業を無事に完了することができました。今回の移行は、我が国の決済システムが国際標準に準拠し、より効率的かつ透明性の高い送金を実現していくための重要な一步です。この取組みがもたらす効果を最大化するためにも、引き続き皆さんと連携して参りたいと考えております。

ISO20022 対応に限らず、クロスボーダー送金の改善に向けては様々な取組みが行われています。2020年10月、G20でクロスボーダー送金の改善に向けたロードマップが承認されました。それ以降、CPMI（Committee on Payments and Market Infrastructures）やFSB（Financial Stability Board）などの国際的な基準設定主体と国際機関、そしてその参加国は、クロスボーダー送金のコスト、スピード、アクセス、透明性に関する定量目標の達成に向けて、優先取組分野や優先アクションを設定し、関係者の協力のもと、グローバルでの多くの取組みを着実に進めて参りました。

今年の取組みとしましては、年次の進捗報告書をはじめ、各種の報告書が公表されておりますほか、データに関連する幅広い関係者を集めた新しい会合の設立、民間タスクフォースでの活動などが挙げられます。

その一方で、今年公表されたFSBの年次進捗報告書によれば、2027年末を期限として設定された目標を達成するのは、現実的に困難であるとの状況が示されています。クロスボーダー送金の改善状況を数値化したKPI（Key Performance Indicator）の本年の算出結果を見ますと、昨年に続き、進捗は乏しい結果となっています。その理由としては、インフラ改善などには長い時間がかかること、取組みの導入速度の違いがあること、クロスボーダー送金改善の根強い課題への取組みには困難が伴うことなど、様々な要因が挙げられています。

こうした状況を認識したうえで、年次進捗報告書は、G20のクロスボーダー送金改善の目的を実現するため、引き続きFSBやCPMIは官民の関係者との協働に強くコミットすることを謳っています。

来年以降の取組みについては、国際的な場で議論が行われています。決済を取り巻く環境は国によって様々で、クロスボーダー送金改善に向けたハードルも国によって異なるため、

今後ますます、各国単位のアクションが重視されていくことが予想されます。既に決済システムや法・規制・監督枠組みなどの論点について、様々な報告書や提言が国際的には公表されています。こうしたものも参考しながら、我が国の実情に合った解決策を検討していく必要があります。

また、今年の報告書では、BIS の実験プロジェクトである Project Agorá をはじめとする、新しい技術の活用をベースにした、幾つかのプロジェクトが取り上げられています。昨年の本席で、既存の取組みから、さらに未来に目を向けるかたちで、Project Agorá についてご紹介しました。ただ、新しい技術を導入すれば自動的にクロスボーダー送金が改善されるわけではありません。現在議論されている、システムや規制などにおける論点を解決することで、新しい技術を活用した解決策も効果を発揮します。

我が国においては、これまで、意見交換やサーベイへの対応、国際的な会議体への参加など、多くの民間関係者の皆さんにご協力をいただきて参りました。今後は、こうした取組みを実際の改善効果に繋げていくことが求められています。そのためには、我が国においても、民間部門と関係当局が、一層緊密に連携していく必要があると、感じております。

こうした観点も踏まえて、本日の分科会では、2つのセッションを予定しております。

1つ目のセッションでは、本年の年次進捗報告書について、概要をご紹介します。先ほど触れましたとおり、2027年末までの目標達成は厳しい見通しですが、G20において、クロスボーダー送金は引き続き優先課題であり、各国による取組みの重要性も指摘されています。日本においては、今後、どのような取組みが有効か、本日の送金分科会が改めて考える機会になることを期待しております。

また、同セッションでは、クロスボーダー送金における電文標準の取組みについても取り上げます。ISO 20022 の共通要件を定めた報告書が 2023 年に公表された後の実際の対応状況や、本年の移行後の状況などについて、実務的な観点から皆さんにご意見をうかがえればと思っております。

2つ目のセッションは、AML/CFT 関連のセッションです。クロスボーダー送金におけるユーザー・エクスペリエンスの向上が重要であるのと同時に、クロスボーダー送金の安全性・廉潔性を維持することも重要です。我が国の国際的な信用力と競争力を共により一層向上させるべく、官民の意見交換を期待しております。

クロスボーダー送金改善のグローバルな定量目標の達成に向けては、これまで以上に、実務レベルでの取組みと、関係当局と民間事業者の皆さまとの対話や連携の双方が必要で

あると考えます。足もとの日本の実態を踏まえて、我が国として何に取り組むべきか、どのような点に留意すべきか、日ごろから皆さまがお感じになっている様々な論点について、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

それでは、どうぞよろしくお願ひいたします。